

## 【資料3】市民意識調査

### (1) 市民意識調査の実施

計画の策定にあたり、市民のごみの排出実態や本市のごみ処理行政に対する意見を把握するため、市民インタビューとアンケートを実施しました。

その概要は以下の通りです。

なお、詳細は、別紙の『市民インタビューの集計』、『市民アンケートの集計』をご確認ください。

### (2) 市民インタビューの概要

#### ① 所要時間

15分～30分程度

#### ② 実施方法

職員による聴き取り(対話形式のインタビュー)

#### ③ 実施期間

平成26年4月7日～平成27年2月24日

#### ④ 主な調査事項(テーマ)

ア 市のごみ問題に対する知識、認識について

イ ごみの増加要因について

ウ 現在実践しているごみ減量化の取組みについて

エ これから実践できるごみ減量化の取組みについて

オ リサイクルの取組みについて

※日常生活の中で実践していること、感じていることなどを聞き取りました。

#### ⑤ インタビューの実績

市内の高校生、大学生、町内会、子ども会、趣味サークル、事業所の従業員など、年代や職業等に偏りがないよう任意に選定した団体にインタビューを申し込み、合計30団体・310名の意見を聴取しました(詳細は別紙「市民インタビュー集計」を参照)。

### (3) 市民アンケートの概要

#### ① 所要時間

10分程度

#### ② 主な調査事項

別紙『市民アンケート集計』を参照

#### ③ アンケートの実施方法

市政モニター並びに環境フェスティバル(平成26年9月28日開催)の来場した市民に対し配布しました。

合計129通配布し、68名から回答を得ました。(回答率52.7%)

#### (4) 市民インタビュー・アンケートの結果

市民インタビュー・アンケートを合わせて、合計 378 名の市民の意見を聞くことができました。それを集約した結果は以下の通りです。

##### ① ごみの増加要因について

- ・平成 23 年度から平成 25 年度までのごみの増加について、自分の家庭でのごみの増加を実感している市民は少ない。
- ・一部(1 割程度)、「震災時に家財道具が壊れた」「消費税増税の際に家具類を買い換えた」「退職を期に、“断捨離”など身の回りの整理を始めた」といった方が見られた。  
⇒統計分析(3~5%の市民のごみの増加が主な原因)と一致する。
- ・”分別することがごみ減量化につながる”という認識の方が大半

##### ② 分別・リサイクルに対する意識

- ・「雑がみ」を分別している市民は5割程度。
- ・分別に対する意識は高く、分別の区分(特にプラスチック製容器包装の洗浄の程度)や再資源化の状況などについて、詳しく知りたいという意見が多い。
- ・大半の市民が”分別することがごみ減量化につながる”という認識を持っている。

##### ③ 排出抑制(リデュース)・再使用(リユース)に対する意識

- ・「ごみの量」に関して意識している市民は少ない。
- ・「ごみ減量化」が必要であるとの問題意識が浸透していない。
- ・リユースについては、リユース品を「提供したい」という意識に対して、「使いたい」という意識が低く(供給過多の状況)、需要と供給のマッチングが課題である。

##### ④ 実践可能なごみ減量(リデュース・リユース)の取り組みについて

- ・生ごみの水切り、レジ袋など過剰包装の削減、長く使える商品の購入など、身近な取り組みへの関心が高い。  
※ただし、環境負荷の少ない商品の購入(グリーン購入)については関心が低い。  
→情報に接する機会が少ないためと思われる
- ・学校やサークルを通じた子供用品の譲渡会、リユース品を通じた国際支援など、リユース品の活用に対するアイデア・要望があげられた。
- ・生ごみの堆肥化(コンポスト等の利用)については、農村部など畑がある家庭では可能だが市中心部では、臭いや堆肥の使い道等の問題から普及が進んでいないようだ。
- ・買い物の際に、トレイなど「プラスチック製容器包装」が大量に出ることを疑問視する意見があった。

##### ⑤ その他の意見

- ・夜勤で朝ごみ出しができない時がありごみがたまってしまうときがある。
- ・ごみ出しのマナー(曜日に関係なくごみを出す。ネットなどをきちんとかけない。分別が不徹底など)を改善すべき、といったマナーに関する意見が多く出された。